

洋野堆肥センターが完成しました

当公社が事業実施主体となって整備を進めてきた「洋野堆肥センター」が完成し、6月27日、多くの関係者が出席して記念式典が開催されました。

◆ 洋野堆肥センターの紹介

洋野堆肥センターは、洋野町大野地区に整備された家畜排せつ物処理施設で、洋野町内の酪農家から集めた牛のふん尿を発酵させて臭いのない堆肥を生産し、畑や牧草地に還元します。

約2万5千平方メートルの広い敷地に、牛ふんの発酵処理を行う「発酵棟」を含む5棟の建物と処理機械などを有しており、1日あたり118トンもの大量の処理が可能です。



完成した「洋野堆肥センター」

◆ 堆肥センターの整備により、農家の規模拡大が可能に

これまでは、各農家がそれぞれ堆肥舎などを設置して牛ふんの処理を行ってきましたが、農家が自ら処理できる量には限界があり、牛の頭数を増やす上での課題になっていました。堆肥センターの完成により、洋野地区では約450頭の規模拡大が計画されています。

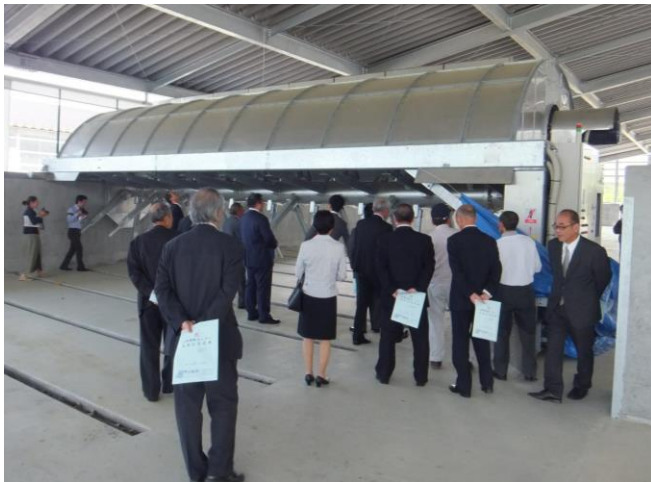
◆ 洋野堆肥センターの整備計画について

国からの交付金による「畜産環境総合整備事業」を導入し、計画期間を含めて平成24年から平成28年までの5年間にわたり、洋野町が施主として整備を進めてきました。

当公社は事業実施主体として、洋野町や酪農家などと協力して計画の取りまとめを行い、事業の円滑な実施に努めてきました。

◆ 記念式典の様子

式典に先立ち、出席者全員で完成したばかりの施設を見学しました。



施設見学の様子と、説明を行う当公社職員(右)

記念式典には、県や洋野町の関係者、酪農家、施工に携わった業者など約70名が出席しました。

工事の経過報告やテープカット、感謝状の贈呈などが行われ、事業実施主体として施設の完成に寄与したとして、当公社も洋野町長から感謝状をいただきました。



テープカットの様子



式典では洋野町水上信宏町長から、当公社小原敏文理事長に感謝状が手渡されました